

工學大會に就て

一 筆 啓 上 仕 候

日本工學會なるものは何物なりやと質問せらるゝ向も有之候ほど、日本工學會は大眾に忘れられたるものに候、されど日本の工學團體の總轄的機關として、先年我國に於て萬國工業大會を開催したる事は未だ御忘れ無之事と存候。

日本の工學技術が未だ幼稚にして、外國の模倣にのみ追はれたりし時代には、日本工學會は唯一の技術家の團體なりしに候、其後工學の進歩は各専門の學會を組織して獨立するに至り、日本工學會は漸次其陰の薄くなりたる次第に候、然るに先年我國に於て萬國工業大會を開催するの議起り、其主催團體として爰に日本工學會を利用する事と相成り、先づ其準備行爲として第一回日本工學會大會を開催し、其手馴しを経て萬國工業大會を實に々々盛況裡に催したる次第に候、而して今回第二回の日本工學會大會を開催したる次第に候

一時は其必要を認められざるまでに立至りたる日本工學會も、今日の如く各學會が多數の専門に分立するに到りては、連絡研究其他の必要上再び其機能を必要とするに至りしものに候、定に今や國內工學技術家聯盟も必要と相成り、又國際的にも工學聯盟の必要を生じつゝある際、我日本工學會の使命も又大なりと申すべく候。

現在日本工學會は次の評議員により維持せられ居候

日本工學會評議員

理事長 男爵古市 公威 (土木學會)
 副理事長 男爵斯波忠三郎 (機械學會)
 理事 佐野 利器 (建築學會)
 理事 關藤 國助 (衛生工業協會)
 佐野秀之助 (日本鑛業會)
 俵 國 一 (日本鐵鋼協會)
 佐藤 清勝 (火兵學會)

藤島 範平 (造船協會)
 松井元太郎 (工業化學會)
 高田 善彦 (電氣學會)
 西協 吉久 (電信電話學會)
 中原岩三郎 (照明學會)

以上の如く、古市理事長は我が土木學會員にして老齡良く今日までも我工學會の首班に仰がるゝ徳望家に候、然も此の古市男を有せる我土木學會が他の學會に比し事毎に遲滯を生ぜんとしつゝあるは定に残念なる事と存候

今回の第二回工學會大會出席者を見るに、十二學會各別の出席者数は次の如くに候

電氣部會	1200名	晚餐會出席	46名
機械學會	955名	同上	53名
建築學會	657名	同上	40名
工業化學會	410名	同上	22名
土木學會	266名	同上	約25名
日本鐵鋼協會	229名	同上	18名
造船協會	291名	同上	22名
日本鑛業會	130名	同上	40名
衛生工業協會	104名	同上	31名
火兵學會	100名	同上	5名

以上の内、總會及び部會講演會に出席したるは半数内外と存候、晚餐會出席者は以上の數より大分増加したる様子に見受申候、而して大會出席者と其の晚餐會出席者の數とを對照すれば面白き傾向を察知し得べくと存候、即ち電氣部會は青年學生等の新人最も多く、研究心はあれども晚餐會の必要を感じざるものの如くに候、機械學會も然り、建築學會も然り、工業化學會も又然り、而して我土木學會に至りて俄然其の傾向を異に致し候、即ち青年技術家の比較的少く、而して大會出席者數に對し晚餐會出席者數の割合に多き事に候此の現象は大家が熱心にして青年技術家が不熱心なるを示すものか、或は少壯技術家が斯る會合を必要とせざるものか、何れにせよ土木工學方面の不振なるは直に工學研究心の不振の如くにも見做されて遺憾の次第に存候

本號に今回の工學會大會の概況を申述候